

平成27年度第2回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 平成27年5月26日（火） 午前10時30分～12時00分
- 場 所： 京都市立病院 5階会議室
- 出席者： 理事長 森本 泰介
理 事 森 一樹，黒田 啓史，桑原 安江，大森 憲，位高 光司，山本 壯太，
能見 伸八郎，木村 晴恵
監 事 中島 俊則，長谷川 佐喜男

1 開会

2 報告等

(1) 平成26年度 京都市立病院機構決算（速報値）について

- 「2 財務状況」の支出項目のうち、「財務費用」とはどのようなものか。
→・ 京都市からの借入金に係る利息等である。
- 前年度と比べて決算値が改善しているが、新館効果によるものか。
→・ 25年度に赤字を計上した原因として、移転費用が臨時的にかかったこと、移転準備や移転後の立ち上がりにおいて収益の伸び悩みがあったことが挙げられる。26年度は、新館移転及び本館改修効果を受けて、診療報酬単価等が増加し、病床利用率や患者数の増加の影響もあり、黒字へと転じた。27年度は更なる利益を計上したい。
- 市立病院「2 財務状況」の支出項目のうち、「材料費」が大幅に減収しているのは何故か。
→・ 直営で検体検査業務を行っていた24年度までは、検査試薬の購入費を「材料費」として支出していたが、業務委託により委託業者が試薬の購入費を負担することになったためである。代わりに「その他」の項目が増加している。
- 25年度の臨時損益はどのような内容か。
→・ 旧北館の除却損のみである。
- 新しい医療機器を導入しているが、その効果が具体的な数字として現れているか。
→・ 放射線治療に用いるリニアックを1台から2台体制にし、PET-CTの導入を行ったが、当初期待していた稼働数値には達していないため、今後より一層稼働率をあげていく必要がある。なお、具体的な業務の実績報告は次回行いたい。
- PET-CTを導入したことで、人間ドックの受検者は増加しているのか。
→・ 人間ドックの受検者数自体は増加傾向にあるが、大型機器の導入に見合った増額までには至っていない。PET-CT健診の受検者増加は、今年度の課題の一つであると認識している。
- 京北病院については、近年どのような財務状況か。また、いかなる項目に力点を置いて経営を行っていくのか。
→・ 平成17年の京都市への合併以降、年々赤字が膨らんでいったが、独法化後は経営収支が改善傾向にあり、ここ数年は比較的安定して推移している。
 - ・ 地域包括ケアを柱として、入院・外来・在宅サービス・訪問介護等、入院・入所から在宅まで一連の医療・介護サービスを提供する過程でそれぞれの稼働率をあげていきたい。
- 介護老人保健施設の業務や収益向上を図ることは、病院の場合とは異なるのか。
→・ 治療施設ではなく、人件費等の固定費がかさむ傾向にある。
- 京北病院について、機構全体として黒字化を図っていく流れのなかで、経常損益が赤字であることをどのように捉えているのか。

- ・ 病院経営の観点からすれば、当然赤字を脱却して、黒字化を図っていくべきであると認識している。もっとも、病院自体が比較的小規模であること、人件費の割合が高い傾向にあることからすれば、非効率な側面がある。
 - ・ 本年4月から一般病床稼働率が向上しており、今年度はこの調子で運営していきたい。
- 後発医薬品（ジェネリック医薬品）の促進は行っているのか。使用率を向上させることで、材料費支出の抑制につながる。
 - ・ 機構として、第1期中期計画において、「後発医薬品採用品目率」について目標値（30.0%）を設定して品目率向上に取り組んできた。
 - ・ 平成26年度診療報酬改定により、「後発医薬品使用率」を伸ばす必要があり、昨年度からは使用率も年度計画の目標に掲げて取り組んでいる。
 - ・ 病院としては後発医薬品の使用を積極的に促進していく。
- 25年度と比べて、26年度の外来「延べ患者数」が増加しているが、今年度も更なる増加を図ろうとすれば、診察等の待ち時間も今まで以上にかかることになりかねない。待ち時間を軽減する方策も同時に検討していかなければ、逆に患者が離れていく。
 - ・ 紹介状や予約をしっかりと活用してもらえよう努めたい。単に外来受診者を増やすだけでなく、逆紹介も積極的に行い、地域の医療機関との役割分担を図っていきたい。
- 入院時から退院までの手続きを円滑にするため、費用をかけずにできる工夫を考えていく必要がある。
 - ・ 入院時から退院までを見渡して、検討を進めていく必要があると考えている。
- 京都市立病院の「格」（個性）が見えてこない。今後こういった個性が見出せるか考えていく必要がある。
 - ・ 市内には同規模病院が多数あり、病院の個性を見出すことは重要と考えている。また、国が進める地域医療構想においても同様である。検討を重ねていきたい。

(2) 平成26年度 京都市立病院機構整備運営事業 事業報告

- 工事費用等の削減効果は、独法化によるものか、それともPFI事業によるものか。
 - ・ 独法化することによって、予算措置の制約を受けず臨機応変に対応できる等のメリットがあるが、PFI事業自体は独法化前に既に開始しており、一概にどちらの効果によるものかを明確にすることは難しい。
- 新館の建築単価について、予想単価を大幅に下回ることができたのは何故か。
 - ・ 民間事業者に一括で発注することができ、また、設計段階で民間視点による創意工夫が施されたことで、施工コストを意識した施設設計を行うことができたためである。
- 食事の提供業務について、未達事項ありとなっているのはどういうことか。また、医事事務業務に関して、接遇や診療報酬業務等に課題があるとはどういうことか。
 - ・ 提供した食事の中に、異物が混入していたことがあった。
 - ・ 応対に対する苦情、レセプト請求に係る不備等があった。
- 検体検査業務は医療の根幹に関わる事務であるが、未達事項は何だったのか。
 - ・ 検査結果の報告について、過去に一度検査データの取り違えがあり、内容の重大性にかんがみて未達事項ありとした。
- 医療機器等の病院設備について、PFI業者から改善等に係る情報提供が行われているのか。
 - ・ 医療機器について、SPCからメンテナンスや更新時期等の情報提供が行われている。
- 全体マネジメント業務のうち、経営支援業務とは具体的にどのような内容か。
 - ・ 外来・入院に関する診療報酬単価や稼働率、手術件数等の統計、難易度指数の分析や改善提案等である。
- 物品管理及び物流管理（SPD）業務、医薬品・診療材料等調達業務について「概ね要求水準達成」となっているが、課題は解決されたということか。

- ・ 物品等の納入について時間がかかりすぎると問題点があったが、現在は大幅に短縮されている。
- ・ S P Cには更に分析を進め、より安価で物品が調達できるような工夫をしてほしいという期待の意味を込めている。また、モニタリング結果小委員会では、毎月意見交換を行っている。
- 施設維持管理業務（病院施設）について、「設備点検に課題があり、病院業務に影響を与えかねない事象が発生した。」とあるが、具体的にはどのような事態が起こったのか。
 - ・ 変電装置の点検を行うため、保安電源のバックアップを行った後、非常用電源回路を切り離したが、その際に安全ブレーカーが作動し、停電が発生した。点検業者が、点検に係るマニュアルを見落としていたのが原因である。

(3) 地方独立行政法人京都市立病院機構定款の変更について

(4) 経営状況月次（4月分）報告

- 京北病院の入院収益が大幅に向上しているが、主な利用者はどのような層か。また、高齢者の入院が増えると、居宅介護支援事業の収益が減収傾向になるのでは。
 - ・ 入院患者は、ほとんどが高齢者である。また、居宅介護支援事業については、昨年1月1日から運営しているが、ご指摘の傾向が認められるか否かは今後推移をみていきたい。
- 市立病院の診療報酬単価が伸びているのは何故か。
 - ・ 手術件数が大幅に伸びたことが主たる要因である。

3 閉会